

誤

六年

画数 14
筆順

コ 訛 誤 誤
ゴ
あやまりる

成り立ち



おどり楽しんでる人のすがたを表した「誤」と、「言」を組み合わせて作った字で、「おどりうかれて言うことば」という意味の字です。それは、「あてにならないことば」が多く、また、「あやまり」が多いものです。

「あやまる」という意味に使われ、「まちがう」こと、また、「まちがい」のことです。

使い方

▽ばくはそそっかし屋で、よく誤字を書いてしまいます。「慎重」を「心重」などと書いてしまって、あれ、変だな、と思うのです。本当に、慎重に書かないといけいな、と思います。

▽わたしは、友だちに誤解されて悲しい思いをしたことがあります。でも、思い切って誤解をとくこともできませんでした。わたしは、自分も早まって人を悪く思ったりしないようにしましょう、と思ったものでした。

熟語例

- ▽誤字(間違った字)
- ▽誤解(間違った理解をすること。)
- ▽誤認(間違つて認めること。間違えたり、考え違えたりすること。「鳥を飛行機と誤認する」などというふうに、つかいます。)
- ▽誤診(間違つて診断すること。「医師が誤診したため、その患者はあやうく死ぬところだった」などというふうに、つかいます。)
- ▽誤記(間違つて書くこと。)
- ▽誤写(間違つて書き写すこと。)

后

六年

画数 6
筆順

コ ウ
コウ
コウ

成り立ち



天子が諸侯にうやうやしく辞令をさずけるすがたを表した「尸」と、天子の意味の「皇」の音を表した「口」とを組み合わせて作った字で、「天子」という意味の字です。例后土、后王。

後に「天子の『きさき』」という意味の「后妃」ということばが、いつの間にか、「后」も「妃」も、「きさき」の意味として使われるようになり、今では皆「きさき」の意味に使われています。

〔後の音は「後」と同じなので、「午後」を「午后」と書いたものである。後の「口」は「皇」ではなくて、本当は「国」の意味の「口」であろう。〕

使い方

▽昔は、天地のことを「皇天后土」と言いました。天の子である天子が治める天地ですから、「天子の天地」という意味で、「皇天后土」と言ったのです。

▽天皇陛下のお名前は明仁さまと申し上げ、皇后陛下のお名前は美智子さまと申し上げます。

熟語例

- ▽后土(天子の治める国土という意味のことばです。昔は、「国土」や「大地」のことをそう呼びました。)
- ▽后王(天子の命により国王となったものという意味のことばです。諸侯のことです。)
- ▽后妃(天子の妃という意味のことばです。わが国では、「皇后」と言います。)
- ▽皇后(天皇の妃「きさき」の名称です。)
- ▽皇太后(先代の天皇の妃の名称です。)
- ▽太皇太后(先々代の天皇の妃の名称です。)
- ▽三后(皇后と皇太后と太皇太后のこと。)
- ▽立后(正式に皇后を決めることを言います。)